

会員ニュース



南雲一廣先生 逸訓

ヴォックスの芸術吟詠で、人の心に息吹を与え、荒廃した人心を詩吟の魂で生き返らせた。



神奈川県指定重要文化財

二宮金次郎(尊徳)の生家

提供 神奈川県地区本部長代行

兼 事務局長 山室瑞山

二宮金次郎(尊徳)は、天明七年(一七八七)に相模国足柄上郡栢山村(現・小田原市栢山)に農家の長男として生まれ、安政三年(一八五六)下野国都賀郡の今市報徳役所(栃木県日光市)に於いて、日光地方の農村復興事業中に七十歳で没しました。幕末乱世の時代、少年期に両親を亡くし、苦勞と独学、そして実践から得た経済観念は、後に財政の逼迫した諸家・諸藩を建て直しました。その手腕が時の老中・水野越前守に認められ、幕府の役人に登用されて、疲弊した農村救済の任に生涯を捧げたのであります。手法は道徳思想と経済性を一体とした「報徳手法」と呼ばれるもので、先ず、荒廃した人心の復活から始め、風評と苦闘・献身的行動は、やがて人々を動かし、遂に六百余カ村を復興し、正に世の為人の為に尽くしました。《何事も 事足り過ぎて 事足らず 徳に報ゆる 道の見えねば》(尊徳先生のお歌)今日の日本、膨大な赤字国債を抱かえ、飽くなき生活態度を考へるとき、今一度「尊徳の教え」を精く時ではないでしょうか。「尚、隣接する記念館ホールは、吟詠コンクール会場として利用している」。



会長

岩淵公胤

人様のお蔭

紅葉目に映える好時節。日頃はヴォックス音楽吟詠会に各地区本部長始め、全国会員の皆様には、ご理解ある暖かい御支援ご協力を賜っておりますことに、改めて感謝と御礼を申し上げます。

先日のヴォックス音楽吟詠コンクール第三十回全国決勝大会には、東京地区担当のもと盛會裡に、しかも百三十番欠席者無しという素晴らしい大会で、役員始め関係各位の皆様には重ねて感謝を申し上げます。

“惻隱の情なきは、以て人に非ず”お互いに感謝と思いやり、いづくしみを持つことが人間形成に最も大事であり必要なことだと思えます。ヴォックスは、心豊かで心の温かい人達の集まり、正にそのことに尽きると思えます。吟剣詩舞道は、日本の伝統芸能です。精神文化の昂揚に最も意義ある芸術であり、日本人として先ず、日本の心、邦楽の良さを再認識する必要があると思います。一歩一歩の積み重ね、その過程において充実感が味わえ

るのではないでしょうか……。品格のある高尚な趣味であり芸術であるこの吟剣詩舞道に会員の皆様とともに明日を信じ、矜持を持ちたいものです。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しく御願ひ申し上げますと共に、御支援ご協力を切にお願ひ申し上げます感謝のご挨拶とさせていただきます。



副事務総長

大塚龍伸

総意結集できる

生きた組織を目指しましょう。

始めまして、ヴォックス音楽吟詠会会員の皆様、ご機嫌如何ですか？

ご承知の通りヴォックス音楽吟詠会は、新しい組織のもと、徐々に生まれ変わりつつあります。民主的に自主運営を図り、一人一人の会員の意思を尊重し、合意によって総てのイベント及び運営に当たる事を目的としております。会議規則については、平成二十一年度の名古屋での執行部会議で、会則の一部を改正し、総会組織に改正されました。

年一度開催し、その場では会員の親睦を図

ると共に、お互いが運営の趣旨などに納得し活動することが必要だと思えます。一方ヴォックスとしては、各地区の組織づくりも大事ではないでしょうか。私ども、手前ミソで誠に恐縮ですが、中部地区は、「中部友好会」を結成し、組織を充実させ、強化することによって、活性化を図って行きたいと思っております。会員の居心地がよくなり、魅力が生まれれば、その姿に感動して新しい仲間も増えるでしょう。すでに今年三名の本部入会届けを受理しました。最後になります。会員総力の結集によって、益々の発展を夢見ながら、皆様のご健勝ご多幸を心より祈念致してしております。

中部地区・吟詠剣詩舞神奈備会

少年少女に 課題授業

平成 21 年 10 月 24 日 三重県四日市市海山道（みやまど）神社境内で、参加者は、子供 25 大人 20 名 稲ワラ文化（しめなわ・脱穀機体験）など楽しい一日を過ごしました。



平成 21 年度 ヴォックス吟詠コンクール

全 国 決 勝 大 会

文部科学大臣賞（播磨地区）

栄えある優勝の方々

- 第一部 やまがきひとみ 山崎仁見（群馬地区）
第二部 かたすみき 加藤美紀（神奈川地区）
第三部 きたやまのりこ 北山則子（播磨地区）
第四部 はらやまのこ 原山孝子（信越地区）
第五部 きたはら ひとみ 北原 ひとみ（信越地区）
第六部（合吟）（東京地区）
てらかみかよ子 寺門加代子
かねこ郁子 金子郁子
かねしげのりこ 兼重規子
さいとうあゆみ 斎藤澄子
きむらひとみ 木村ひとみ



栄冠は、**第三部優勝者**

播磨地区 北山則子さん！！



審査の先生が居並び、厳正な
雰囲気漂います。



コンクール風景 真新しい“国旗”と“会旗”が掲げられました。

吟詠コンクール 全国決勝大会

部門別 優勝者

敬称略



第二部 優勝者 神奈川県

加藤 美紀



会場の、両国東京博物館は、見上げるほどの巨大な建物でした。

第一部 優勝者 群馬地区
山崎 仁見



第四部 優勝者 信越地区

原山 孝子



第五部 優勝者

北原 伝



コンクール 優勝者 ご紹介

第一部優勝
群馬地区代表・山崎仁見
吟道館流伊勢崎吟詠会所属



事務局に送っていただいた、優勝者・山崎仁見さんの、素顔をご紹介します（広報部）。

一・詩吟を始めた時ときっかけ・小学校二年生の春、お姉さんが詩吟をやっており、おばあちゃん先生（猪熊千風先生）に進められ教えてもらいました。

- 二・学校名・伊勢崎市立広瀬小学校
現在・同第二中学校一年生
 - 三・現在の指導者・会長・関 勝風
 - 四・今後と将来の夢・これからも、詩吟を続けていきます。将来の夢は声優になりたいと思っています。
- ◇学業と、詩吟を両立させ、詩吟コンクールで、素晴らしい結果を示されましたね。将来の夢に向かって努力されている様子がよく分かります。

吟道館流伊勢崎吟詠会

会長 関 勝風

コンクール 各部門優勝

御禮のことは

第三部優勝・文部科学大臣賞

播磨地区代表 北山則子

吟道賀堂流近畿本部所属

伯馬吟詠会 吟歴二十六年

このたびは、思いがけない最高の賞をいただき、有難う御座いました。ヴォックス音楽吟詠会第三十回全国決勝大会に出場して、まさかまさかの思いも掛けない「第三部優勝」と「文部科学大臣賞」という大きな賞と、又合吟の部では、第三位となり、私の人生の一生分を一度に授かった思いが致します。自分の名前を呼ばれた時は、信じられず他の人の名前かな？と思える不思議な感覚に囚われました。一瞬身体が動けなくなったように思いました。この栄誉ある成績は、

詩吟を知らなかった時の私を今日まで導いて下さった賀堂流の大先生を始め、但馬吟詠会の恩師である城根賀宗春先生や諸先生方のおかげです。そして、暖かく見守り支えて下さったお友達・弟子（大の仲良し五人組）皆様に助けられての授賞であると皆様方に感謝の気持ちで一杯



大会後、仲良く観光

です。本当に有難う御座いました。ふり返れば、詩吟を始めて二十六年、年月だけが早く過ぎ去ったように思います。詩吟も人間としてもまだまだ未熟です。より一層の努力と体力を付けて今後も詩吟の練習と人生を精一杯頑張りたいと思います。どうぞ今後とも優しく暖かくそして、厳しく見守って下さいませ。最後になりましたが、ヴォックス音楽吟詠会の益々の発展と皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

感謝感激！ 全員 心を一つに

栄冠を頂きました

第六部優勝（合吟の部）

東京地区代表チーム

暁穂流吟詠会・寺門加代子

高く澄み切った青空に、白いうるこ雲が浮び、秋の訪れを感じながら十月四日（日）の朝を迎えました。

こんな日は、富士山はさぞかし雄大な美しい姿で泰然としていることでしょうと思いつながら、ふと「畜獄」を口ずさんでおりました。やがて会場に着き、出演者の素晴らしい独吟に聞き入って感心致して居りました。

私達の出場時間も迫りつつあり、落ち着かず、頑張らなければと念じつつも、不安もあり、計り知れない気持ちで一杯でした。その結果、この記念の第三十回全国コンクール決勝大会に、幸運に恵まれる事が出来ました。詩吟を愛し続けたことに対するご褒美だったのでしょうか、唯々感謝感激！嬉しかったです。本当に有難う御座いました。私の人生の宝で御座います。

此の度の栄誉は、宗家の尊いご指導と、亦優れた吟友の激励を受けながら全員心気一体となって得られた賜と存じます。

これからも此の受賞を励みに健康を保ちながら、修業をさせて頂きたいと念じております。末筆では御座いますが、ヴォックス音楽吟詠会の益々の御栄光をお祈り申し上げます。





第一部

優勝 山崎仁見(群馬)
 準優勝 廣氏咲良(播磨)
 三位 富澤志織(東京)
 入賞 和田晃太(中部)



第二部

優勝 加藤美紀(神奈川)
 準優勝 木津恵美(近畿)
 三位 三宅正純(中部)
 四位 越谷桂子(群馬)
 五位 越谷綾乃(群馬)



第三部

優勝 北山則子(播磨)
 準優勝 長谷川 悟(播磨)
 三位 田辺正幸(信越)
 四位 石原友子(群馬)
 五位 立石京子(群馬)



第四部

優勝 原山孝子(信越)
 準優勝 唐木明二(信越)
 三位 大浦恒子(近畿)
 四位 青沼シズ子(信越)
 五位 渡邊雅子(中部)
 六位 西田光義(近畿)

第五部

優勝 北原 伝（信越）
 準優勝 内田 裕（東京）
 三位 中川 やい（北関東）
 四位 石田千代三郎（信越）
 五位 玉木平八（中部）



第六部（合吟）

優勝 （東京）
 寺門加代子
 金子郁子
 兼重規子
 齊藤澄子
 木村ひとみ



昨年（21年）部門
 優勝者吟詠
 さすが実力発揮です。

功労賞受賞：80歳以上・現役
 の方々に贈られました。



功労賞の皆様

山本博三（近畿）
 伊藤栄二（神奈川）
 秋山好久（神奈川）
 芝田ミツ（北関東）



播磨地区

事務局長 燈本賀求道



しゅうようくらくじつ

秋陽落日

(下平一先韻)

今当欲沈白日鮮
山端染苔住神仙
落陽此美誰圖画
森羅万象悉和全

今当に沈まんと欲す 白日鮮やかなり

山の端を苔に染むる 神仙住す

落陽の美は此れ 誰の图画ぞ

森羅万象 悉く和して全し

中部地区・副会長 長谷川桂樹

高野山

(下平声八庚韻)

深山樹蔭露晶晶
浄境老杉天籟鳴
石廟堆苔渥泉水
他年追憶不堪情

深山の樹蔭 露晶晶

浄境の老杉 天籟鳴る

石廟堆苔 泉水渥おう

他年の追憶 情に堪えず

信越地区 片倉清彰(清風)二題

日本吟詠學院清流會

大寒尋詭訪感異峯

有因温暖寒威期

水作紋還漁子舟

返照感嘆青眼客

看聞天鏡色兵優 (尤韻)

温暖に因つてか 寒威の期

水に紋を作して還る 漁子の舟有り

返照に感嘆す 青眼の客

閑に看る天鏡の色 兵に優なるを

語釈…青眼客(青眼)で迎える客。

(喜んでまともに見るの目つき)の客

日本吟詠學院清流會青年部七年會

(於治癒而美ヶ原温泉郷飯店翔峰)

展望佳景爽晴天 歴歴雪山峰北連

登坂車乗趣飯店 管懐村氣趣依然

吾人會有青年部 三十二秋饒酒筵

花貌浩歌聲朗朗 歲寒遊戯舞媚媚

浮生勿憚宜歡謔 況復相親心底圓

展望す佳景 晴天に爽やかなり

歴歴たる雪山 北へ連なつて暉やく

坂を登りて車乗 飯店に趣く

管てを懐ふ村氣の 趣依然たるを

吾人が會に 青年部有り

三十二秋 饒酒の筵

花貌浩歌すれば 聲朗朗たり

歲寒遊戯すれば 舞媚媚たり

浮生憚ること勿れ宜しく歡謔すべし

況や復た相親しみ 心底圓なるをや

参考文獻

改稿 枕草子通解 転載

昭和三十年十一月発行

著者 金子元臣・橋 宗利

第二段 (頃は)

頃は、正月、三月、四五月、七月、八・九月、十一月、十二月、すべて折りにつけつ一年(ひととせ)ながらをかし。

語釈・解説

頃は……*頃は、(一年のうちで面白い頃は)折りにつけつ……その季節季節につけて。(つ)は、動詞の継続を示す接続助詞)

ながら……すっかり・皆・全部の意を持つ接続助詞。

第二段 (正月一日は)

第二段は、やや長文の為、本号では、都合上四節に分類、前二節を記載します。

正月(むかし)一日は、まいて空の景色うらやましく、めづらしく霞(かすみ)めたるに、世にありとある人は、姿かたち、心殊(こと)につくるひ君をもわが身をも祝ひなごしたるを、殊(こと)にをかし。七日は、雪間の若菜(わかな)やかに摘み出

つ、例はさしも、さる物、目近からぬ所にもて騒ぐこそをかしけれ。白馬(あまうま)見むとて、里人は、車清(きよ)げにしたてて見にゆく。中の御門の闕(とじきみ)ひき入るるほど、かしらども一所にまろびあひて、刺櫛(さし)も落ち、用意せねば折れなどして、笑ふもまたをかし。左衛門(さゑもん)の陣(ぢん)などに、殿上人(とのうぢ)あまた立ちなどして、舍人(とねり)の弓ども取りて、馬ども驚(おど)かして笑ふを、はつかに見入れたれば、立部(たてじとみ)などの見ゆるに、主殿司(とのもりづかさ)、女官(にょくわん)などの行きちがひたるこそをかしけれ。いかにばかりなる人、九重(ここのへ)をかく立ちならすらむ、など思ひやらるるに、うちにも、見るはいとせばき程にて、舍人が顔(かほ)のきぬもあらはれ、白き物のゆき付かぬ所は、まことに黒き庭に雪(ゆき)のむら消えたる心地して、いと見苦し。馬のあがり騒(さわ)ぎたるも、恐ろしく寛(ひろ)ゆれば、引き入られて、よくも見やられず。

口語訳

正月七日は、雪の下から青々と萌えた若菜(わかな)を摘んできて、いつもはそんな草(くさ)に、そつした野菜(やさい)などはあまり見かけないことも無い御殿(ごてん)の中で、賑(にぎ)やかにもてはやしているのが、面白い。(この日に雪中(ゆきの中)で行なわれる)白馬(あまうま)のお儀式(ぎしき)を拝観(はいくわん)しようとして、私邸(しでん)にいる官吏(くわんし)の家族(かぞ)たちは、車を綺麗(きれい)に飾り立てて見に出掛ける。待賢門(たいけんもん)の闕(とじ)の所で、車を門内

に引き入れる途端(とたん)に、(車の動揺(どうご)で)頭(かぶ)などもしょいよによるけて、鉢合(はちあ)わせをし、刺櫛(さし)も落ち、うっかりしていると折れたりなどして、笑うのも亦面白い。(待賢門(たいけんもん)を入り、右に折れた)建春門(けんしゅんもん)の陣(ぢん)のあたりに、殿上人(とのうぢ)が大勢(おほし)立っていたりして、舍人(とねり)達の弓(ゆみ)を借りて馬(うま)を驚(おど)かして笑っているのを、こわごわやと覗(のぞ)き込んだところが、(奥(おく)の官陽門(くわんやうもん)を通して温明殿(ぬめいでん)の前(まえ))立部(たてじとみ)などが見えるが、その辺を、女の殿司(とのうぢ)や女官(にょくわん)などが、往(むか)ったり来(き)たりしているのが面白い。どれ程(いかに)果報(くわんぱう)のいい人が、尊(たう)い内裏(うち)のうちのを、こんなに物慣(ものな)れて、立ち振舞(ふるま)い歩(あ)いているのであろうと、(羨(うらや)ましく)想像(さくご)されるが、宮中(みやちゆう)でも今見渡(いまみわた)す所は狭(せま)い範囲(はんい)で、(すべ)て間近(まぢか)に見え、化粧(けしょう)した 舍人(とねり)の顔(かほ)の生地(なま)もあらわれ、白粉(おしろい)のゆきわたらぬ部分は、全く土(つち)の黒(くろ)い庭(にわ)に、雪(ゆき)がまだらに消えたような気持ち(こころ)がして、実に醜(みにく)い。馬(うま)のはね上がり騒(さわ)いでいるのも恐ろしく思(おも)われるので、つい車の内(うち)に顔を引(ひ)き込(こ)めるようになり、(何事(なにごと)も)よくも見(み)ていられない。

熱田神宮 御遷座祭



ヴォックス音楽吟詠会総本部の事務所所在地は、熱田神宮東に隣接する位置にあります。今年度発売CDの表紙は、熱田神宮の航空写真です。九十四年振りに建て替えられた金色に輝く社殿で、十月十日夜、御遷座祭が執行されました。松明の火も消されて真っ暗な闇の中、神職の行列が回廊を進み、白絹で包まれた御神体・草薙の剣が、真新しい神殿に移されました。平成二十五年には、創祀千九百年の節目の年を迎えます。

総本部 研究委員 中部地区

吟舞楽 聖山流宗家

佐藤聖山



マイソング を作りましょう

歌を作るには、まず詩を作ることから始めます。思いついた言葉を書いてみて、良さそうなものを並べてみます。気に入ったフレーズが幾つか出来たらストーリーを考えながら言葉をつなげて、ひとまず完成としておきます。次にすることは、出来上がった詩を読みながら旋律を考えます。詩の趣から、長音階にするか短音階にするか？追分形式（メリスマ様式）か、八木節形式（シラブル様式）にするのかを考えながら、自作の詩を何度も読み返します。言葉の持つリズムを大切に時々コンダクターを弾きながら旋律を作っていきます。

ひんく

下座のついで

舞台家

「舞台」には、神が存在すると言え、大方の人々は、そんな大げさな、と思うでしょう。しかし真剣に舞台に臨む方は、その言葉の意味を充分理解し尚且つ同調できるはずで、

日本神話に語られている「天磐屋戸うすめの舞」が始まるといわれる伝統芸能は、舞台の清浄感を最も重視しなければなりません。それは、心と姿かたちの両面に求められます。

最近、舞台上の見苦しい姿が多くなりました。その例は、ピカピカ光る腕時計をつけたままであるとか、股開き、我が物顔に動き回るなど、「日常生活の私」を表すこと等があげられます。舞台は、特別な世界です。先ず自分の「姿」を整えることを大事と心得たいですね。和装の場合にも、背広で挨拶に立つ場合も光る物は避けましょう。避けたほうが謙虚であると感じられます。ヴォックスには、非常に素晴らしい姿勢の方が多く見られますので、これを見本としたいものです。「礼節をわきまえた人々の集まり」これが他の団体に無いヴォックスの素晴らしい特色になって欲しいものです。

翔雲



記念演舞・ヤマトタケルは、草薙先生が自ら熱演されました。

平成二十二年四月二十九日（水・祝）、名古屋クラウンホテルに於いて、創立七〇周年記念・吟道文化大会が行なわれました。笠井先生の「感謝と笑顔で皆さんをお迎えしましょう！」をモットーに、一年前から何回も打ち合わせし、準備して大会に臨みました。幕開けは、諸富一即宗家と野沢清子（清鳳）先生との運命的な出会いと、野沢先生の《気概》をメインテーマに、構成吟「創立七〇周年回顧録《初心忘れず・歲月は人を待たず》」。来賓吟詠・剣詩舞では、ヴォックス音楽吟詠会からも岩淵公胤会長

名古屋本部連合会

創立七十周年記念

静吟詩堂名古屋吟道文化大会

多数の来賓と会員で大盛況



草薙先生の式典挨拶

をはじめ、多数の先生方が来て下さいました。本当に有難う御座いました。祝賀会には、会場を埋め尽くした二百名余の皆様が、楽しく盛り上げて下さり、最後は岩淵公胤先生の威勢のいい手締めで、見事に締めくくって戴きました。

ヴォックス音楽吟詠会

正会員の皆様へ 総会開催のお知らせ

ヴォックス音楽吟詠会定時総会

日時・平成22年3月5日（金）午後1.00

会場・名古屋クラウンホテル

総会后・ヴォックス30周年記念祝賀会

※従来の執行部会議に代り、正会員の総意を集約するため、今後は、総会を行う事となりました。時期に合わせてご案内申し上げますので、予めご了承賜りたく本紙上に掲載します。

総本部事務総長・草薙典龍

平成22年度版

課題吟詠集

CD発売 1枚¥2,500

11月 各地区発送します。

平成22年度課題詩及び平成21年度優勝者吟詠

南雲一廣先生 遺作集より

清水源翁一那須与一 伊藤見峰一八幡公

歌謡吟詠収録

お知らせ

ヴォックス音楽吟詠会

ホームページ情報

平成 21 年 4 月 22 日 開設

アドレスご案内

<http://www.vox-ginei.co>

56号 会員ニュース
発行部数

神奈川県	70
北関東地区	28
近畿地区	52
群馬地区	40
信越地区	140
東京地区	85
中部地区	631
播磨地区	300
西中国地区	115
総本部	39
合計	1500

広報部からのお願い・原稿募集!
南雲先生の御遺志を、どのように顕して行くか。勇気あるご提言・ご意見をお待ちしています。他に大会・各地行事報告・出来事・人物紹介・和歌漢詩の作品発表・吟詠随想、舞台雑感、文鑑賞・各流各会活動など。お知らせ下さい。

平成 22 年度 吟詠コンクール全国決勝大会
(担当地区…近畿地区本部)

ヴォックス音楽吟詠会創立 30 周年

記念祝賀会 名古屋クラウンホテル

平成 22 年 3 月 5 日 (金): 6 日 (土): 観光

平成二十二年 度 コンクール 課題吟

13	和歌・俳句	※自作、新体詩を除く
12	青葉の笛	松口月城
11	胡隠君を尋ぬ	高啓
10	春日山懐古	大槻盤溪
9	富士山	石川丈山
8	偶感	西郷南洲
7	峨眉山月の歌	李 白
6	早に白帝城を発す	李 白
5	出郷の作	佐野竹之助
4	涼州詞	王 翰
3	平泉懐古	大槻盤溪
2	凱旋	乃木希典
1	武野の晴月	林 羅山

正会員入会

平成二十一年 度

友松明光	鶯風流明光会会長	東京
山本神植	神風流神享会会長	東京
野田尹孝	関西吟詩文化協会・東京支部会長	東京
若林鵬風	吟道館流伊勢崎吟詠会・幹事長	群馬
大久保智直	賀堂流北辰吟詠会	播磨
浜田天翠	天翔流吟詠会本部長兼副会長	近畿
南 天風	天翔流吟詠会副会長	近畿

正会員退会

手嶋吟征	双竹吟友会会長	東京
日下美晃	晃上流晃上吟詠会宗家	東京

訂正

56号の記事に、誤りがありましたので、訂正させていただきます。

二十一年四月入会 正・高柳岳仙 (誤・岳山) 中部